

佐渡米通信

こめる

2022年 12月号

発行日:2022年12月

編集人; 佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

令和4年産米の集荷・検査状況

お米の集荷が終盤を迎えました。今年の佐渡産コシヒカリの品質については、近年続いた登熟期間の猛暑日が少なく「乳心白粒」の発生が抑えられましたが、2回に渡るフェーン来襲などの影響で1等米比率は10月21日時点で77.3%となりました。

近年に無い気象条件でしたが生産者一同「特A」復活に向け特にケイ酸肥料の施用や土づくり力を入れて取り組み、最終的には過去10年の平年値並となる見込みです。

令和4年産1等米比率	
コシヒカリ	77.3%

※10/21時点



出穂後も順調で収穫時には美しい黄金色になった稲穂



検査の様子

新規就農の促進活動

JA佐渡では農産物の安定した提供を維持するため新規就農制度にも力を入れています。その取り組みの一つとして、東京EXPOで開催された「新・農業人フェア」に出展してきました。「新・農業人フェア」は、農業に興味のある方やこれから農業に一步踏み出そうという方が各自治体や農業法人から情報を得たり直接質問出来るイベントです。JA佐渡のブースには、約30人の方が立ち寄り、佐渡の農業についてや就農支援制度などさまざまな質問を頂きました。早速来島したうで考えたいと前向きに検討される方もいました。

新規就農者には3年間JA佐渡の職員として働きながら農業研修を受けられる支援制度が設けられています。今年度は、3人の方が就農に向けて研修に励まれています。



JA佐渡のブースの様子



募集パンフレット

佐渡の米農家さんにインタビュー!!

小木地区の濱田嘉夫さん(69歳)にインタビューをしてきました。濱田さんは、かつて廻船と造船で栄えた宿根木地域を守っていくために、「宿根木を愛する会」の会長を務めながら農業(米・柿)や「茶房やました」という店舗運営をされています。濱田さんは、5町歩のお米づくりをしています。特に育苗に強い思いを持っておられました。約15年前に集落のみんなと育苗を始めましたが、数多くの失敗を重ねても指導を受け品質の良い育苗が出来るようになったと嬉しそうに語られていました。



1846年以降築の建物を改装し、茶房を運営している濱田さん



「お米づくりは面白い」と語る濱田さん



育苗ハウスに隣接する田んぼの畦には彼岸花を植え景観向上に努める

観光客の方たちの中には濱田さんとの出会いがきっかけとなって、佐渡米を選んでくれるようになった方もいるそうです。

濱田さんは地域の人と協力して景観の保護や若い人が帰ってこられるように建造物の管理など多岐に渡る活動を日々続けられています。お米づくりも、宿根木地域の保全と活性化をするための大切な活動の一つだそうです。店頭で販売されていた濱田さんの新米を購入し早速食べてみました。味はもちろんのこと濱田さんとの楽しい時間の余韻を感じながら美味しく頂きました。



たらい舟や街並みを楽しむ観光客



小木

サドガエル引っ越し大作戦!!

ほ場整備工事を前に工事区域に生息する“サドガエル”を保全するため新潟県と新潟大学の共催で「引っ越し活動」が行われました。地元の小中学生と大学生、地元関係者あわせて150人が参加しました。91匹のサドガエルが捕獲され、区域外に放たれました。



捕獲されたサドガエル

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>



JASADOTANBO